

Title	忍術道歌：校本「伊勢三郎義盛忍百首」
Sub Title	
Author	土井, 大介(Doi, Daisuke)
Publisher	慶應義塾大学国文学研究室
Publication year	2000
Jtitle	三田國文 No.31 (2000. 3) ,p.55- 67
JaLC DOI	10.14991/002.20000300-0055
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20000300-0055

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

忍術道歌―校本「伊勢三郎義盛忍百首」

土井 大介

「伊勢三郎義盛忍百首」(以下、「義盛百首」)は、源義経配下の武將・伊勢三郎義盛に作者を仮託し、忍術の教えを百首の和歌形式で説いた道歌集である。本稿では、「義盛百首」を何らかの形で収録する、現段階で管見に入っている五種のテキストを校合し、校本を作成する。本資料は成立と受容、文芸史上の意義など、考えるべき多くの問題を孕んでいるが、それらの考察については別稿に譲る。

●各本解題

まず、五種のテキストについて、各々の書誌的解題と、「義盛百首」の収録形態とを記す。

(1) 東北大学附属図書館狩野文庫蔵『軍法侍用集』承応二年版
大本。一二巻一二冊。袋綴。元和四年(一六一八)跋、承
応二年(一六五三)刊。小笠原勝三昨雲編。京都加藤庄次
郎刊。

寸法：縦二八・〇センチ、横一八・五センチ(巻により若干の
前後あり)。

表紙：浅葱色。変わり毘沙門亀甲地に、亀紋と向い違い龍紋を
散らして押す。

外題：巻三・四・七・八・一〇の各表紙中央上方に貼題箋。銀
泥刷毛引地で、上方に「軍法侍用集三(四、七、八、十)」、
右下に小字で「備中(備下、竊中、竊下、日中)」と墨書
で記す。

内題：「軍法侍用集序」「侍用集巻第一(一十二)」

また、各巻内題の次行に、巻名を記す。以下の通り。(ル
ビは割愛する)

- 巻一「武勇問答之次第」
- 巻二(三、四)「備勝負巻上(中、下)」
- 巻五「道具軍禮巻」
- 巻六(七、八)「竊盜巻上(中、下)」
- 巻九(一〇)「日取方角文段巻一(中)」
- 巻一一「日取秘傳巻下」
- 巻一二「氣之巻」

本文：無罫。半葉一〇行。字面天地約二二・〇センチ。漢字平
仮名混。句点あり。ルビあり。各巻冒頭に目録を付す。

丁付：版心なし。各丁中央や上方に柱題、やや下方に丁付を刻す。各巻柱題は以下の通り。「武勇」「備上（中、下）」

「道」「竊上（中、下）」「日文中（中）」「日秘下」「氣」
後付：巻二最終丁（三二丁）表に小笠原昨雲による跋、裏に刊記を付す。跋末尾の署名と日付は以下の通り。

小笠原／昨雲入道／歳元和四（戊／午）年中夏吉日 在判

また、刊記は以下の通り。

承應二（癸／巳）季仲夏吉日／寺町本能寺前／加藤庄次郎開判

印記：各冊表紙見返し、中央やや上方に「東北大学図書印」の朱陽刻、巻一のみ、その左下に「荒井泰治氏ノ寄附金ヲ以テ購入セル文學博士狩野亨吉氏旧蔵書」の朱陽刻。一丁表右下に鼎型の中に左から右に「軍法」と刻す褐色陽刻、その下に重ねて「極」の朱陰刻。また、巻一二・三二丁表の跋、「小笠原／昨雲入道」の上に「判読不明」の朱陽刻、裏の刊記、板元名の下部に「軍法（陰刻）、加藤（左右に陽刻）」褐色。

「義盛百首」収録形態：巻七竊盜巻中の一五丁裏から二〇丁裏にかけて、「第二十 よしもり百首之事」という小題を以つて百首が記される。百首目の歌の後に、

右百首は、義經書捨物語の中に、よしもり哥とてあるを、此書にあらはすもの也。

と記す。（テキストからの引用にあたっては、ルビを割愛し、送り仮名・句読点・括弧を適宜補い、異体字は現行書

体に改める。以下同じ）

今回取り上げた五種のテキストの内、成立年の明らかなものとしては、最も古いものである。

また、「義盛百首」の百首全てを収めるのはこのテキストのみである。

（2）慶應義塾図書館蔵『軍法侍用集』承応四年版

大本。一二巻二冊。袋綴。元和四年（一六一八）跋、承応四年（一六五五）刊。小笠原勝三昨雲編。京都西田加兵衛刊。

寸法：縦二六・九センチ、横一八・四センチ。

表紙：柿色。菱渦巻地に蓮唐草を押す。

外題：各巻左上端に貼題箋。四周子持枠で、「軍法侍用集一

（十二）（武／全）（備／上）、（備／中）、（備／下）、

（道／全）、（竊／上）、（竊／中）、（竊／下）、（日／上）、

（日／中）、（日／下）、（氣／全）」と刻す。

内題：（一）に同じ。

本文：四周单边枠。縦二〇・五センチ、横一六・一センチ（丁により若干の前後あり）。半葉二一行。ただし、巻七・一五丁表（一六丁裏（義盛百首後半部分）のみ、半葉二一行。漢字平仮名混。句点あり。ルビあり。各巻冒頭に目録を付す。

録を付す。

丁付：版心あり。横野により三つに分かつ。中縫上部に柱題、下象鼻上部に丁付を刻す。各巻柱題は（一）に同じ。ただし、巻一のみ「武巻」とする。

後付：卷一二最終丁（二六丁）裏に、小笠原昨雲による跋、その左に刊記を付す。跋の本文・署名・日付は（一）に同じ。刊記は以下の通り。

承應四（乙ノ末）吉旦ノ寺町ノ西田加兵衛

印記：各卷一丁表の右上に「鳥越神田家蔵」の朱陽刻、右下に「慶應義塾図書館蔵」の朱陽刻。また、卷一二・二六丁裏の刊記板元名左下に「（判読不可）」の朱陽刻。
備考：函の一部に朱の色刷りあり。

「義盛百首」収録形態：卷七竊盜卷中の一二丁表から一六丁裏にかけて、「第二十 よしもり百首之事」という小題を以つて百首が記される。その他、（一）に同じ。

（一）の二年後に刊行された別版本。本文は（一）とほぼ完全に一致するが、新たに板を起こしたものである。

なお、「国書総目録」によれば、「軍法侍用集」には他に万治元年（一六五八）版・寛文四年（一六六四）版があるが、未見である。

（3）内閣文庫蔵『万川集海』

大本。二三卷一一冊。袋綴。延宝四年（一六七六）序。藤林保武著。写本。

寸法：縦二七・一センチ、横一九・四センチ。
表紙：薄縹色。布製角裂を施す。

外題：各冊左上に貼題簽。第一冊は「萬川集海第一卷」左下に小字で「序凡例」と墨書で記す。第二冊以下「萬川集海第一二三卷（第四五六七卷、第八九十卷、第十一十二卷、第十

三卷、第十四十五卷、第十六十七卷、第十八十九二十卷、第二十一二十二卷）、第一一冊「萬川集海軍要秘記 全」となっている。

内題：「萬川集海凡例」「萬川集海目録」。卷二以降は以下の通り。

卷二「萬川集海卷之二ノ正心第二」

卷三「萬川集海卷之三ノ正心第二 二字之事」

卷四「萬川集海卷之第四 忍實事ノ将知之一」

卷五「萬川集海卷第五ノ将知之二期約之篇」

卷六「萬川集海卷第七（ママ） 不入小謀之篇上ノ将知之

四（ママ）」

卷七「萬川集海卷第七 不入小謀之篇下ノ将知五（ママ）」

卷八「萬川集海卷第八ノ陽忍上 遠入之篇」

卷九「萬川集海卷第九ノ陽忍中 近入之篇」

卷一〇「萬川集海卷第十ノ陽忍下 目利之篇ノ見分之篇ノ

間見之篇」

卷一一「萬川集海卷第十一ノ陰忍一 城宮忍篇上」

卷一二「萬川集海卷第十二 陰忍二ノ城宮忍篇下」

卷一三「萬川集海卷第十三ノ陰忍三 家忍篇」

卷一四「萬川集海卷第十四ノ陰忍四 開戸之篇」

卷一五「萬川集海卷第十五ノ陰忍五 忍夜討之篇」

卷一六「萬川集海卷第十六ノ天時之上 遁甲篇」

卷一七「萬川集海卷第十七ノ天時 天文篇」

卷一八「萬川集海卷第十八ノ忍器一 登器篇」

卷一九「萬川集海卷第十九ノ忍器二 水器」

卷二〇「萬川集海卷第二十ノ忍器三 開器」

卷二一「萬川集海卷第廿一／忍器四 火器」

卷二二「萬川集海卷第廿二 火器」

軍要秘記「〔萬川／集海〕軍要秘記」

本文…半葉八行×九行。字面天地一九・九センチ×二三・四センチ。漢字片仮名混。一部ルビあり。朱書あり。書入あり。

丁付…なし。

後付…なし。

印記…各冊一丁裏右中央に「日本政府圖書」の朱陽刻。右下に

「淺草文庫」の朱陽刻。

備考…図の一部に朱・灰色で彩色。

「義盛百首」収録形態…卷一、卷二、卷四×卷七、卷九、卷一

一、卷一二、卷一五の本文中に、「義盛百首ノ忍歌二」
歌二」という形で、本文に関連する歌が一首×三首ずつ、

計四二首五七例が引用される。

(4) 早稲田大学図書館蔵『連城叢書 三十九』

大本。袋綴じ。元治元年(一八六四)写。小寺玉晁写。

寸法…縦二四・二センチ、横一七・一センチ。

表紙…若葉色。横刷毛引。

外題…表紙左上に貼題簽。四周单边枠で、「連城叢書」下部に

小字で「三十九」と記す。

内題…「伊勢三郎義盛忍百首」

本文…半葉一三行。字面天地約一八・二センチ。漢字片仮名混。

丁付…なし。

後付…「義盛百首」の後に「源義經百首軍歌」と同軍歌の系図

を付し(ともに目録にはなし)、その後(一一丁裏)に識語を付す。以下の通り。

右義盛・義經之百首古寫本者、細楚忠棟先生之藏書ヲ以テ、再写。于時／元治元年甲子十一月十九日雨降夜／燈火ニ筆納／尾陽 小寺廣路

火ニ筆納／尾陽 小寺廣路

印記…一丁表「目録」右上に「早稲田文庫」の朱陽刻、右下に

「判読不可」の朱陽刻、その下に「こく晁」の朱陽刻、

右下の二つの印に一部重ねて左側に「小学／玉晁文庫」の

黒陽刻。一一丁裏識語の署名下に「玉晁」の朱陽刻。

備考…背面下部に「小寺廣路文庫記」、上面右から左へ「連城

叢書」とそれぞれ小口書き。

「義盛百首」収録形態…本書冒頭二丁表×五丁裏にかけて、九

四首を収める。末尾に、

六首欠／右百首者、伊勢三郎義盛之詠、疑ひ無き者歟。

名譽□作也。後見之□授け、正而書寫す。□誤る可き哉。

或傳に云、伊勢三郎者、伊勢國鈴鹿山、鬼八郎武盛一子

也。依りて武勇聞え有り、義經上洛之砌、被对面云云。

(原漢文。空字はママ)

とある。

(5) 群馬大学附属図書館蔵『軍歌集』

大本。二巻一冊。袋綴。写本。成立年・著者不明。

寸法…縦二二・六センチ、横一五・二センチ。

表紙…栗色。

外題…表紙左上に貼題簽。「軍歌集并武者詞 全」と墨書(并)

のみ小字右寄り。「詞」と「全」の間、右寄りに「ぬ」と小字で墨書。「全」の右下に「禰」、左下に「下」と、それぞれ小字で朱書。少破れあり。

内題：「軍歌集」

本文：一丁～一二丁半葉六行、一三丁～六〇丁半葉八行、六一

丁～六七丁（「武者詞」部分）半葉七行。字面天地一五・

〇センチ～二一・五センチ。「軍歌集」漢字平仮名混、「武

者詞」漢字片仮名混。

丁付：なし。

後付：なし。

印記：表紙見返し中央やや下方に「新田義美氏／御寄贈」、そ

の下に「群馬大学附属図書館」と、それぞれインクで押す。

「義盛百首」収録形態：「義盛百首」は、「義経軍歌」「佃軍歌」

と並び、本書に収める四四一首の和歌の出典のひとつとなっ

ている（出典不明の歌もある）。ただし、出典とするテキ

ストの書名や作者に仮託される武将名は一切記されず、た

だ歌だけが羅列してある。また、構成に改変が加えられ、

本来の順番どおりには並んでおらず、重複している歌もあ

る。「義盛百首」は、下巻「軍道哥 百四拾一首」（目録）

に九四首が収められている。

●凡例

・東北大学附属図書館狩野文庫蔵『軍法侍用集』承応二年版所収の「よしもり百首」を底本とし、慶應義塾図書館蔵『軍法侍用集』承応四年版（四）、内閣文庫蔵『万川集海』（万）、

早稲田大学図書館蔵『連城叢書』（連）、群馬大学附属図書館蔵『軍歌集』（軍）にそれぞれ所収の同和歌本文との校異をまとめたものである。まず、狩野文庫蔵『軍法侍用集』承応二年版所収「よしもり百首」の全文翻刻を掲げ、一首ずつに句毎の各本の校異を示した。

・歌番号は私に付したものである。

・丸囲み数字は、一首を五・七・五・七・七に区切った時の初句を①、以下二句目～五句目を②～⑤として表わしたものである。

・表記の違いは基本的には拾わないが、表記の違いによって明らかに意味が異なってくるもの、意味が限定されてくるものは挙げてある。

・底本の『軍法侍用集』承応二年版には三句目の後に句点が付されるが、割愛した。

・校異の『軍法侍用集』承応四年版のルビは割愛した。ただし、

底本と異なる訓みが振つてある場合は挙げてある。

・『万川集海』巻一～一五は、同じ箇所が重ねて書写されており、該当部分では歌も重複して収録されている。その場合は収録の順番に従い、略号を（万一）（万二）とした。

・『連城叢書』の本文に付されている「虫喰」「本ノマ、」などの注記は全て原文ママである。

・末尾に歌番号対応表を付す。数字は各テキスト内での通し番号。ただし、『万川集海』（万）のみ、丸囲み数字で収録する

巻数を示す。

〇〇一、大風や大雨のふる時をこそ

しのびようちのたよりとはずれ

③時ニコン(万²・連) ⑤便とは成(軍)

〇〇二、雨風もしきりなる夜は道くらく

ようちしのびの働もなし

②頻成夜の(軍) ④竊盜夜討ノ(万)

〇〇三、いつはりを恥とおもはじしのびには

敵出しぬくぞならひなりける

⑤習ナリケリ(連)

〇〇四、いつはりもなにかくるしき武士は

忠ある道をせんとおもひて

③武士ノ(連) ④忠なる道を(四)

〇〇五、竊盜には時をしるこそ大事なれ

敵のつかれとゆだんする時

⑤油断有トキ(万²)

〇〇六、ぢんがへの用意のあらは竊盜には

さき立て行あんないを見よ

③忍ヒツ、(連) ④先へ立行(軍)

〇〇七、ぢんがへの案内をせば山川や

敵のあひだを第一とせよ

〇〇八、しのびつゝ見立る事を繪圖にして

軍者にむかひ談合をせよ

〇〇九、ぢんがへはまづ時と日のならひあり

しのびの役は所てきあひ

②先時ト日ニ(連)

〇一〇、しのびには城と陣とのならひ有

なんじよのかたと森と物かけ

〇一一、しのびには身の働はあらずとも

眼のきくを專一とせよ

⑤肝要トセヨ(万¹・万²)・

〇一二、ようちにはしのびのものを先立て

敵の案内しりて下知せよ

②忍物見ヲ(万²)

〇一三、軍には竊盜物見をつかはして

敵の作法をしりてはからへ

②忍ノモノヲ(連)

〇一四、竊盜者に敵をとひつゝ下知をせよ

たゞあやうきは推量のさた

①忍者ハ(万²)・忍ニハ(連・軍)

〇一五、はかりことも敵の心によるぞかし

しのびを入れて物音をきけ

〇一六、心がけふかく有ぬるものゝふは

しのびにひかれ道筋をしれ

①はかり事(軍) ⑤物させてきけ(軍)

○二七、しのびにはゆくことよりも退口ひきぐちを
大事にするぞ習なまなりける

②深く有スル(万) ④忍ニヒカケ(万)

○二八、たゞ人をつれてしのびに行時ゆきは
まづのき口きぐちをしるしをしへよ

⑤習ナリケリ(連)
③行ナラバ(万1・万2)
⑤記シ覚ヘヨ(万2・連)

○二九、しのびにはならひの道はおほけれと
まづ第一だいいちは敵てきにちかづけ

○三〇、我陣わがじんに夜うちしのびの入事は
与黨よたうの人の科とがとこそきけ

②習ノ道ニ(連)
③ヨト□ノ人ノ(連)

○三一、しのびには道具たぐひさままく多おほくとも
まづ食物しよくもつはこしをはなすな

③多ケレト(連) ④先食物ヲ(連)
⑤腰ニハナスナ(連)

○三二、火ひと水みづははなさぬものぞしのびには
野山のやまにぬるを役やくとおもひて

○三三、墨筆すみふでは萬事ばんじの用もちに立たぞかし
しのびにゆかばやたてはなすな

①火ト水ヲ(連) ②ハナス物ソ(連)
③立ツカシ(万) ④忍ヒニ行一ハ(万)

○三四、城中じやうちゆうや陣所ぢんしよをしるとはやくたゞ

立歸たちかへるこそ巧者こうしやなりけれ

○二五、敵てきにもし見付みつけられなは足あしはやに
②陣所ぢんしよを知は(軍) ③ハヤクタル(連)
⑤巧者こうしやなりけり(軍)

○二六、しのびえては敵てきかたよりもどしうち
用心ようじんするそ大事だいじ成なりける

④退ひて帰かへそ(軍) ⑤忍ヒナリケレ(連)
①忍ヒ得えテ(連・軍) ③同士討どうしうちヲ(連)

○二七、ようちには敵てきの付入事つけいじぞ有あり
⑤大事だいじ也なりケリ(万1・万2・連)

○二八、どしうちも味方みかたの下知げちによるぞかし
武者むしやのしるしをかねて定さだめよ

○二九、さまをかへ姿すがたをかへていろくくに
敵てきをなぶるは盗人ぬすびとの役やく

○三〇、道ちかすぢに目付めつけをせんと心がけよ
我屋わがわすれてふかくばしすな

④武士ぶしノシルシヲ(連・軍)
①道筋みちすぢノ(連) ②目印めいじるしシセント(万1)
④敵てきヲナフルソ(連) ⑤盗人ぬすびとノワサ(連)

○三一、うちよりもあふ事ことあらは森林もりはやし

③思おもフヘシ(連)
④出戸いでとヲ忘わすテ(万1)・出処いでところ忘わすレテ(万2)
⑤フカクハシルナ(万2)

○三二、

○三三、

すこしのかげにまづかゞむへし
②追事有ハ(連)

○三二、しのびにも又夜うちにも行道を
かへるは大事ゆきぬけはよし

⑤行ヌケテヨシ(連)

○三三、しのびとて道にそむきしぬすみせは

神や佛のいかてまぼらん

○三四、得たるぞとおもひきりつゝしのびなは

まことはなくとかちはあるへし

③忍ナン(万一)

○三五、しのびにもほそりをするな武士の

まことのなきは一類のひけ

②佃リラスルナ(連)

○三六、おどろかす敵のしかたにさわぎなは

しのふ心のあらはれぞする

○三七、大勢の敵のさわぎはしのびよし

しづまるかたにかくれがもなし

②敵ノサワカハ(連) ④静ナ方ニ(万一)

⑤隠家ハナシ(万一・万二)・

カクレルモナシ(連・軍)

○三八、竊盗には三つのならひのあるぞかし

論とふてきと扱は智略と

①忍ンニハ(連)

②三ツノ習(連)・三の習の(軍)

④不敵ト論ト(万) ⑤又ハ智略ト(万)

○三九、ものゝふはつねにしんじんいたすへし

天にそむかはいかてよからん

○四〇、しのびにも行事あらは祈念して

しよぐわんじやうじゆの上に出べし

○四一、しのび行道や門出にけのあらは

時日かへつゝあらためて行

①忍ヒテノ(連) ②道ヤ門出ニ(連)

③池有ハ(連) ⑤改テコケ(連)

○四二、門出にすわりし食にもみあらは

夜討しのびの吉事なりけり

②すわる食事に(軍)

○四三、門出の膳なる汁にかけなくは

そのよのしのび大事なりけり

①門出に(軍)

○四四、かど出にからずの聲のきこゆるは

はんなるそよきちやうはつゝしめ

④半ナレハヨシ(連)・半成は能(軍)

○四五、しのび行方角あしき時ならは

まづよき方に門出をせよ

②方角アシク(連)

○四六、行さをねずみの横に行事は

ねこいたちよりふかくつゝしめ

①行先ニ(連)

○四七、いきものしのびにむかひつゝばは

まづ行事のしんしやくをせよ

② 忍ふに向ひ (軍)

③ つくはは、(四・連・軍)

○四八、しのびゆく道にけだものふす事は

仕合のよきずいさうとしれ

③ たつ事は (四) ⑤ 随想と知れ (軍)

○四九、しのびには星なきかたにゆかぬなり

曇夜ならは雲光るかた

⑤ 空光ル方 (連)

○五〇、いなづまの跡光こそ吉事なれ

さきに光をふかくつゝしめ

② 跡ヒカリコソ (連) ③ 大事成 (軍)

○五一、月の夜は白出立ぞ目にたゝね

やみにしのばゝくろきものきよ

② 白キ出立 (連) ・白雲社 (軍)

⑤ 黒き物能 (軍)

○五二、日月にむかひし時はかげもなし

うしろばかりはかげそあらはる

① 日月には (軍) ⑤ 影ヲ□ラワル (連)

○五三、雪ふりにしのびに行し事あらは

まづ足あとの用心をせよ

② 忍行事 (連) ・忍ひ行先 (軍)

③ 有ナラハ (連) ・事有は (軍)

○五四、目つけもの又はしのびにゆく時は

書置をせよ後の名のため

③ 行ナラハ (万一) ④ 書直サセヨ (連)

⑤ 後ノ世ノタメ (万一) ・後世ノ為 (万二)

○五五、ものゝふはあやぶみなきぞよかるへし

まへうたがひはをくびやうのわざ

① 忍ヒニハ (万一・万二)

② 危ナキヲ (万二) ③ 良トセヨ (万二)

○五六、ものゝふはたゞ物ことのをくれなく

手軽き出立いさぎよきかな

④ タ、物毎ノ (連) ・只物事に (軍)

④ 手カルキ□立 (連) ⑤ いさみ能哉 (軍)

○五七、とが人の跡をしたひてめつけせは

姿をかへて人にしられな

③ メツケヲハ (連)

⑤ 人ニシラスナ (連・軍)

○五八、人をしり我をしられぬしわざこそ

しのびのものゝ巧者とはいへ

② 我を知らさぬ (軍) ③ 仕事社 (軍)

⑤ 巧者トハイフ (連)

○五九、とが人のつくるをしるとおもひなは

道をかへつゝ出合にせよ

○六〇、一人をふたりのしのびつけは

敵をはさみてあとさきに居よ

③ つけ行は (四)

○六一、しのびにも又は目つけの時もたゞ

よるを大事と心がけせよ

○六二、長途は大勢つれてめつけせよ
②又は目付に(軍) ③行時も(軍)
かはり／＼にやすまなため

○六三、竊盗にも夜詰番衆もくたびれば
④サハリ々々ニ(連)
⑤ヤスミスルタメ(連)
ふかくをとらん始なりけり

○六四、つかれよりゆだんおこれる物なれば
②夜詰番衆ノ(連) ⑤印成ケリ(連)
かはり／＼に夜詰ばんせよ

○六五、番所にていましむべきは高咄
①ウカレタリ(連)
酒もりうたひ拍女ばくゑき

○六六、さわがしき事ありとても番所をは
⑤柏子バクエキ(連)・遊女はくへき(軍)
立のかざりし物とこそ聞

○六七、夜廻や大事の番をする時は
④立退去リシ(万)
しづまり居つゝ物をとをきけ

○六八、夜まはりのとをる跡よりまはすをは
かまりつけとぞいふならひなる
③廻ルヲハ(連) ④カマリ討トソ(連)
⑤イフナラヒナリ(連)・云習せる(軍)

○六九、よまはりのとをる跡こそ大事なれ
かまりつけをはいくたりもせよ

○七〇、かまりつけはだん／＼に行廻こそ
敵のしのびを見つくと聞
⑤見ツクルトキケ(万・連)

○七一、敵方に馬のいなゝきしきりならば
夜うちの用意するとしるべし
①敵方の(四・連・軍)
③シキリナハ(連)

○七二、森林ねとりさわぎて立ならは
敵のあるぞと用心をせよ
③シキリナハ(連)

○七三、夜まはりの心がけには物音や
敵のさわぎと火事と油断と
⑤事ト油断ト(連)

○七四、よまはりにふしんのものを見付なは
ちりやくを廻いけどりにせよ
⑤事ト油断ト(連)

○七五、夜まはりにうち捨するは大事なれ
はやまり過て味方うちすな
②討捨ヌルソ(万)・討捨ルコソ(連)

○七六、成がたきしのびをしたる手柄には
しるしをとりに帰べきなり
④早マリ討テ(連)・誤過て(軍)

○七七、武士はたゞいつも丸ねをこのむべし
身をくつろげてゆだんばしすな
④印ヲシテ(連) ⑤婦ルヘキナリ(連)

○七八、何事も心ひとつにきはまれり
①武士ハ(連・軍) ②イツモ丸ヲ(連)

をのが心にこゝろゆるすな

③極れよ(軍)

○七九、まのまへに敵のあるぞと心得は

ゆだんの道はなかるまじきを

⑤なからましきを(四・連・軍)

○八〇、あかつきは人のねふりもさめやすし

しのびにゆかば心得をせよ

②人ノネムリソ(連) ③サメヤスキ(連)

⑤心ヲノセヨ(連)

○八一、敵中に女のふしてある時は

火の立やうに大事こそあれ

①敵ノ中ニ(連)

○八二、四季の火はならひの道のあるものを

しらて立るはあやうかりけり

②習道の(軍)

○八三、敵の城敵の陣所に火をつけは

味方に時のやくそくをせよ

○八四、城や陣に火付入んとおもひなは

味方近付時をまつへし

②火付出ント(連) ④味方追付(連)

○八五、城や陣に火をつけぬへき時はたゞ

あかつきがたの風を待得て

①陣ヤ城ニ(連)

⑤風を待へし(四・連・軍)

○八六、敵城のしのぶしるしをとるならば

まぎれぬものを肝要とせよ

①敵城ニ(万)

○八七、敵かたの旗馬じるとりくるは

味方のためにあしきとぞ聞

③取タラハ(万) ⑤悪クトソ云フ(万・軍)

○八八、火をつけて味方ちかづくものならば

ときをつくりて聲を合よ

⑤刻を合よ(軍)

○八九、敵方の城や陣所に名をかきて

しのぶ手柄を人にしらせよ

②城ヤ陣屋ニ(万) ④竊盗印ヲ(万)

○九〇、我かたにしのおもひなは

味方をかぞへせんさくをせよ

○九一、番所などにこつじきひにん來なは

あらくもてなし追かへすへし

①番所ナドヘ(万) ⑤追拂フベシ(連)

○九二、番所にて心のよはき人はたゞ

ふかくをとらんもといなるへし

⑤基イ也ケリ(万)

○九三、他國よりくる人ならはしんるいも

番所に近く寄べからざる

④番所へ近ク(万)

○九四、番所にてしきりにねむくなるならば

ことあるべきと用心をせよ

⑤ヨスベカラザレ(万)・寄テ悪キソ(連)

②ミタリネムク(連) ③成は(軍)

④事有ヘシト(連)

○九五、旅にてはなに、つけてもゆだんすな

ふかくの事のある物ときく

③油断セハ(連) ⑤アルソトハキク(連)

○九六、大事なる荷物をもてる旅ならば

まづかどせどの道筋を見よ

②荷物ラモチシ(連)

④先門背ノ(連)・先門廻門(軍)

○九七、にもつをは座敷の中につみ置て

壁あるかたに番をなすへし

④壁□□ニ(連)

○九八、たび宿の二かいざしきに氣をつけて

すがき遺戸に用心をせよ

④スカキキリ戸ニ(連)・

すかきやりきに(軍)

○九九、竊盗にはふたり行こそ大事なれ

ひとりしのぶにうき事はなし

⑤シク事ハナシ(連)

一〇〇、ふたり行しのびはひとりさきだちて

跡なる人に道をしへせよ

②忍ひと独(軍) ⑤道ヲオシヘヨ(連)

底本 (初句)	(四)	(万)	(連)	(軍)	底本 (初句)	(四)	(万)	(連)	(軍)
001 オオアメヤ	001	⑩⑪	001	289	051 ツキノヨハ	050	(ナシ)	047	337
002 アメカゼモ	002	⑩	002	290	052 ニチゲツニ	051	(ナシ)	048	338
003 イツハリヤ	003	(ナシ)	003	291	053 ユキフリニ	052	(ナシ)	049	339
004 イツハリモ	004	②	004	292	054 メツケモノ	053	⑩⑪	050	340
005 シノビニハ	005	⑩⑪	005	293	055 モノノフハ	054	⑩	051	341
006 ゼンガヘノ	006	(ナシ)	006	294	056 モノノフハ	055	⑩	052	342
007 ゼンガヘノ	007	(ナシ)	007	295.297	057 トガヒトノ	056	(ナシ)	053	343
008 シノビツツ	008	(ナシ)	008	296.298	058 ヒトヲシリ	057	(ナシ)	054	344
009 ゼンガヘノ	009	(ナシ)	009	(ナシ)	059 トガヒトノ	058	(ナシ)	055	345
010 シノビニハ	010	(ナシ)	010	299	060 イチニンヲ	059	(ナシ)	056	346
011 シノビニハ	011	⑩⑪	011	301	061 シノビニモ	060	(ナシ)	057	347
012 ヨウチニハ	012	⑤⑬	012	300	062 ナガミチハ	061	(ナシ)	058	348
013 イクサニハ	013	④	013	302	063 シノビニモ	062	(ナシ)	059	349
014 シノビシャニ	014	④⑬	014	303	064 ツカレヨリ	063	(ナシ)	060	(ナシ)
015 ハカリゴトモ	015	④⑬	015	304	065 バンショニテ	064	(ナシ)	061	350
016 ココロガク	016	④	(ナシ)	305	066 サワガシキ	065	⑦	062	351
017 シノビニハ	017	(ナシ)	016	306	067 ヨマハリヤ	066	⑦	063	239
018 タダヒトヲ	018	⑩⑪	017	307	068 ヨマハリノ	067	⑦	064	240
019 シノビニハ	019	①⑨	018	308	069 ヨマハリノ	068	⑦	(ナシ)	(ナシ)
020 ワガザンニ	020	(ナシ)	019	309	070 カマリツケハ	069	⑦	065	241
021 シノビニハ	021	(ナシ)	020	310	071 テキガタニ	070	(ナシ)	066	242
022 ヒトミツハ	022	(ナシ)	021	311	072 モリハヤシ	071	(ナシ)	067	243
023 スミフデハ	023	⑨	022	312	073 ヨマハリノ	072	⑦	068	244
024 ジャウチウヤ	024	(ナシ)	023	313	074 ヨマハリニ	073	⑦	069	245
025 テキニモシ	025	(ナシ)	024	314	075 ヨマハリニ	074	⑦	070	246
026 シノビエテハ	026	⑤⑫	028	315	076 ナリガタキ	075	(ナシ)	071	247
027 ヨウチニハ	027	⑦	(ナシ)	316	077 プシハタダ	076	(ナシ)	072	248
028 ドシウチモ	028	⑤⑫	025	317	078 ナニゴトモ	077	(ナシ)	073	249
029 サマヲカヘ	029	(ナシ)	026	318	079 マノマヘニ	078	(ナシ)	074	250
030 ミチスヂニ	030	⑫⑭	027	(ナシ)	080 アカツキハ	079	(ナシ)	075	251
031 ウチヨリモ	031	(ナシ)	029	319	081 テキナカニ	080	(ナシ)	076	352
032 シノビニモ	032	(ナシ)	030	320	082 シキノヒハ	081	(ナシ)	077	353
033 シノビトテ	(ナシ)	②	(ナシ)	(ナシ)	083 テキノシロ	082	(ナシ)	078	354
034 エタルゾト	033	⑩⑪	031	321	084 シロヤザン	083	(ナシ)	079	355
035 シノビニモ	034	(ナシ)	032	(ナシ)	085 シロヤザン	084	(ナシ)	080	356
036 オドロカス	035	⑨	033	322	086 テキシロノ	085	⑫	081	357
037 オオゼイノ	036	⑩⑪	034	323	087 テキガタノ	086	⑫	082	358
038 シノビニハ	037	⑨	035	324	088 ヒヲツケテ	087	(ナシ)	083	359
039 モノノフハ	038	②	036	325	089 テキガタノ	088	⑫	084	360
040 シノビニモ	039	(ナシ)	037	326	090 ワガカタニ	089	⑦	085	361
041 シノビユク	040	(ナシ)	038	327	091 バンショナドニ	090	⑥	086	362
042 カダイデニ	041	(ナシ)	039	328	092 バンショニテ	091	⑥	(ナシ)	363
043 カダイデノ	042	(ナシ)	(ナシ)	329	093 タコクヨリ	092	⑥	087	364
044 カダイデニ	043	(ナシ)	040	330	094 バンショニテ	093	(ナシ)	088	365
045 シノビユク	044	(ナシ)	041	331	095 タビニテハ	094	(ナシ)	089	366
046 ユクサキヤ	045	(ナシ)	042	332	096 ダイジナル	095	(ナシ)	090	367
047 イキモノノ	046	(ナシ)	043	333	097 ニモツツバ	096	(ナシ)	091	368
048 シノビユク	047	(ナシ)	044	334	098 タビヤドノ	097	(ナシ)	092	369
049 シノビニハ	048	(ナシ)	045	335	099 シノビニハ	098	⑩⑪	093	370
050 イナツマノ	049	(ナシ)	046	336	100 フタリユク	099	(ナシ)	094	371